

< コラム >

「総合学科と地域との連携」

北海道清水高等学校長
佐々木 護

1 教育振興会設立の背景

本校は昭和9年清水実科女学校として開設されて以来、創立65有余年を経過する学校である。この間、地域に根ざす教育を学校の校風とし、進学や部活動の面で輝かしい実績を残してきましたが、時代の変化と地域住民の生活圏の拡大によって 町内中学生の流出、生徒・進路指導上の問題、中学生の多様な進路希望に十分に対応できない学校の現状打開を求める声が高まるにつれ、北海道教育委員会の高校適正配置計画を見据えながら、高校活性化の方策として、平成7年8月以降、総合学科転換について町当局の行政レベルや校内において本格的に検討を開始した。その後、本州の他府県の総合学科先進校の視察研修と報告会を繰り返し行うとともに、学科転換に対する町有識者や議会での基本的合意を得ながら、平成9年6月14日に振興会が設立されたものである。まさに高校に期待する地元住民の声の代表として誕生したものであり、組織としては、設立準備委員会のメンバーでもあった小・中・高校PTA三役、町内中学校長、高校同窓会三役、酪農家振興会、町教育委員会から構成されている。事務局は今年度から高校に置くとともに各種事業の推進にあたっている。

2 教育振興会の目的と活動内容

本振興会は、時代の変化と高校の多様化に伴い、将来とも魅力ある学校であるために、各種支援活動を行うことを目的としている。主な活動として、高校への支援・協力・啓蒙活動、関係機関への陳情活動、町内小・中学校との連携支援活動、町内企業等との連携支援活動などである。

3 教育振興会の現状と課題

総合学科転換を機に、アメリカのミシガン州チェルシーへの派遣事業に高校生5名、教員1名の派遣追加が認められるなど町民の期待が大きい。本振興会独自の事業としては、町の助成・同窓会の賛助金をもって運営され、清水町全戸に年4回配布される「総合学科通信」や下宿受け入れ協力金、中学校訪問やJRへのダイヤ改正などの様々な要請活動費などに充てられる。また、「産業社会と人間」での職場体験学習先の確保、出口問題についても、側面的な支援をいただいている。更に、高校の現状理解を高めるための授業公開、学校課題に対する支援策、中学校との進路担当連絡会議、中・高校PTA交流、総合学科地域説明会などの事業や情報交換を通じて高校の活性化を実現することが、町全体の教育の活性化に直結する依存度の高い地域性を考えると、本振興会の果たす役割と責任は極めて重要である。